

春

SYUNJUSAI
熊本県立大学・学報
2000・8
VOL.15

秋

■春秋彩とは…

「万葉集」の額田王の春秋を論じた歌の詞書「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。
「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

彩

特集 環境共生学部新棟落成





KAITSU no CHIKARA

夏日の力。

夏の灼熱に、君が行く手
を見失ってしまっただけ。
例えば陽光から生まれた
緑陰を想ってみる。強い
光ほど、濃い影を創り出
す。そこに吹く風は和ら
ぎ、立ち止ま
る者に立ちすべ
る。等しく、涼
をひととき、
与えてくれ
る。時に惑い、悩むこと
があったとしても、木々
に降り注ぐ夏の光はその
強さの分だけ、赤裸に君
の進む道を示し、続けてい
るのだから。



心の師

ハンス・ペーターズ先生が忽焉と逝って、もう三十何年にもなつた。

一九六一年、私がドイツはケルン大学に先生の門を叩いたのは、その学風を慕つてのことだった。二年間、私の受けた学恩は量り知れない。しかし、それを遙かに超えて、先生の無言の人格的感化こそが、その後の私に掛け替えないものとなった。

古き良き時代の生粋のプロイセン家庭に人と成り、過去五十年を通じて十位内という拔群の成績で高級行政官試験に合格、博士論文またマグナ・クム・ラウデ付きと伝えられる先生は、そんなことなどおくびにも出さぬ紳士であり大人だった。

若き日志願して第一次大戦に従軍し少尉で復員した先生は、第二次大戦では空軍に召集され高射砲隊長や参謀少佐として軍務に服したが、その敬虔な信仰、高潔無比の精神は到底ナチズムと相容れるはずもなく、戦慄すべき危険を冒して、公然あるいはひそかに抵抗運動に身を挺した。全国的中核組織「クライザウ・サークル」の有力メンバーとして、また、ベルリンの第一線地下グループ「オンケル・エミール」の一員として。辛うじて生き残った先生の、このことについての口は重かった。

一九六六年一月の或る朝、夫人を早く亡くして一人暮らしだった先生の住居を訪れたお手伝いさんによって、先生が前夜ベッドで急死していたのが見つかった。心筋梗塞。本が読みさしで、ランブが点いたまま。ベッドの傍らには、最期まで活動的だった先生がその朝出発しようとしていた旅行に自ら整えたスーツケースが置かれていたという。



熊本県立大学
学長 手島 孝

1	PROLOGUE 夏の力
2	学長のことは 心の師
4	特集 環境共生学部新棟落成
8	研究内容の紹介 こんな研究しています。 文学部／鈴木 元 助教授 環境共生学部／南 久樹 助教授・張 代洲 講師 総合管理学部／進藤 三雄 助教授
12	学術紀要の紹介
14	教員の紹介 我が師 文 学 部 徳永紀美子 助教授 総合管理学部 野村 武 教授
15	留学体験随筆 過去との遭遇 （総合管理学部 松岡 泰 教授）
16	学生VOICE 思い出づくり の声 体得 自分から動く
18	サークル便り 環境若葉 エイマール 空 手 部
19	卒業生からのメッセージ 「思いつづけること」が大きな力です <i>message for you</i> あなたの情報アンテナがビィビィビィ!! 部来志保子（熊本県立大学環境共生学部勤務） 木本 拓哉 金剛剛総合企画グループ企画チーム勤務）
20	CAMPUS-NEWS
24	Incident（2000.2～2000.6） Schedule（2000.7～2001.3）

環境共生学部新棟落成

平成十一年四月、自然環境と人間活動の共生をめざして誕生した「環境共生学部」。一年後の本年四月、その拠点となるべき新棟がついに完成しました。

■「環境との共生」をテーマにあげる学びの館 (環境共生学部新棟)

南北二つの研究棟をブリッジでつないだ五階建てのスマートな建物は、自然光や風をふんだんに取り入れる工夫が随所になされ、自然の営みを体感しながら省エネルギーに努めることができるように設計されています。また、太陽光発電や雨水利用システムを採用して、環境との共生について学ぶ場に相応しい設備を備えているのも特徴の一つとなっています。

この環境にやさしい空間の中に、学生や教員が利用する数多くのパソコンシステム、インターネットシステムや、環境制御型電子顕微鏡、顕微鏡画像解析システム、環境ホルモン分析装置、環境化学分析機器類、大気や水の流体力学シミュレーションシステムをはじめとする最先端の環境分析機器類が整備されています。ここは生態系と環境を科学する館であり、環境問題を学び、研究を重ねる人々の活動の場となっています。



●生物実験室（北棟三階）

森林、沿岸の生態系、水産資源の環境、農地などの植物資源を生産する環境などを調査する実習を行います。微細な生物や、生物の微細構造を観察するために、多数の顕微鏡を使用します。中でも、ハイビジョンカメラで撮影した鮮明な顕微鏡画像が大型モニターに投影されるのは圧巻です。



■学部長あいさつ



環境共生学部長
菅野 道廣

環境共生学部の新棟がついに落成し、充実した最新の教育研究設備のもとに、いよいよ本格的に環境共生学の教育研究に取り組む体勢が整いました。

本学部の開設以来、「環境共生学部では、どのような学問を探究し、教育研究をめざすのか」との質問を賜りました。そのたびに「人間活動と自然環境の共生です」と答えてきましたが、判然とされない方も多かったのではと思います。

本年五月二七日には、環境共生学部落成記念式典を行い、環境共生学部の設立に心をお寄せくださった多くの方々をお招きし、新棟をお披露目することができました。各施設・設備を直接見ていただいたことにより、我々がどのような教育研究をめざしているのか、少しでも御理解いただけたのではないかと思います。

また、本学部ではこのたび、学外の教育・研究機関や企業との交流を促進するため、「熊本県立大学環境共生学部研究支援センター」を設立しました。多様化する環境問題に幅広く対応し、地域の環境問題の研究に大いに貢献したいと思っています。

●環境情報処理実習室 北棟二階

最新機種のパソコン三三台を備え、統計解析、画像処理・解析、DTP（デスクトップパブリッシング）、ホームページ作成などの実習を行います。これらの実習を通して、環境を調査して得られた情報を解析し、分析する能力と、得た情報を整理して、発信する能力の育成を目指しています。



●精密分析機器室（南棟二階）



高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計、液体クロマトグラフ質量分析計、ガスクロマトグラフ四重極質量分析計など、環境中の微量有機有害物質を分析する最新鋭化学分析機器類が並んでいます。これらの分析機器類が、環境中の化学物質が人間や自然に及ぼす影響を鋭く診断します。

●大気環境分析室 南棟三階

高性能のコンピュータシステムを用いて、大気や海洋の水の動きを分析し、汚染物質の移動のメカニズムや波や風によって起こされる様々な現象のしくみを説明します。また、オゾン計や窒素酸化物計などの分析装置を使って、大気汚染物質の調査や分析を行います。



●構造実験棟

1 汎用加力装置

実際の建築物で使われている大型の梁に圧力をかけたり、鉄筋や木材へ圧力や引っ張り

を加えて、建物に使われている部品や素材の強度を調べます。

2 実大加力試験用反力床・反力壁

大規模な構造物や、実物大の家屋に圧力を加えて、総合的な強度を調べるために使用します。

●動物実験室 北棟一階

マウス、ラット、家兎などの小動物を五〇〇余匹飼育可能な実験室です。これらの小動物を用いて栄養・ストレス・化学物質などが生物にどのような影響を及ぼすのかを研究します。

●集団給食実習室 南棟一階

最新の大型調理機器を用いて集団調理を体験し、給食運営に関する方法、技術を習得することを目的としています。



環境共生学部 新棟落成記念式典

五月二十七日（土）に、本学大講義室において、環境共生学部新棟落成記念式典が開催されました。

あいにくの雨の中ではありませんでしたが、企業や団体職員、高校関係者を中心に約二五〇人が出席しました。

式典では、環境共生学部の三つの専攻について、各専攻主任が説明したあと、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授 石弘之氏が、「どうなる21世紀の地球と日本の環境」と題して記念講演を行いました。

また、出席者の多くは、式典終了後に実施された新棟施設見学にも参加し、本学教員による説明を興味深げに聞いていました。



石 弘之先生 講演内容

「どうなる21世紀の地球と日本の環境」



環境共生学部新棟落成おめでとうございます。二〇世紀を表す様々なキーワードの中でも、最も重要な「共生」という言葉を新学部命名されたこととはまことに時宜を得たものといえます。また五月二十七日は、「沈黙の春」の著者レーチェル・カーソンの誕生日でもあります。記念すべき日です。

＊

私の学生たちは、大開発が行われているボルネオ島のアブラヤシ林を見て「環境を破壊している」と言い、長野県の棚田は「自然と調和して美しい」と感動しました。つまり、彼らにとって過去十年以内の目新しい開発は破壊であり、何百年もかけた開発は破壊ではないのです。

私は環境と環境問題とは別にすべきであると提案しています。環境とは、生物、樹木、地形など長い時間をかけて変化するものであり、環境問題とは、短時間で起こり、人間が感知できる問題ある変化のことです。変化をいつても元に戻せるなら利用であり、元に戻せなければ破壊であると言えます。しかし、この捉え方も当事者の考えによって変わってきます。

＊

環境には、時間、変化の度合い、受け止める側の感性と価値観という三つのファクターがありますが、問題は、我々が環境問題と認識し得ないところで大変なことが起こっていることです。例えば化学物質問題です。一九六〇年代、アレルギーを持った人は二％程度だったのが、今では三割以上の人が何らかの症状を持っていると言われています。わずか四〇年の間に日本人の肉体が変わったのでしょうか。いや人間ではなく環境が変わってしまい、我々の知らないところで重金属や化学物質が溢れているのです。

＊

私が環境と時間について考えるようになったのは、昨年ヨーロッパから来た環境学者を箱根に案内したことがきっかけでした。箱根のある博物館に展示されていた江戸末期から明治初頭の日本の絵や写真を見て、彼は「東京には木がなかったのですね」と言ったのです。確かに絵や写真には木がない、あつても赤松しかないのに私は驚きました。

一八九一年に始まる日本の森林に関する統計によると、百年前に一六〇〇万ヘクタールだった日本の森林は、現在二五〇〇万ヘクタール、つまり一・五倍となつています。かつては燃料にするため木が切られていたのですが、私たちは、木が減少していると思つていますが、実は現代が過去三〇〇年で森林が最も多い時期なんです。

ここに私たちの先入観があります。私たちは、環境問題とは何なのかというセンサの感度を常にとっておく必要があります。

＊

一九世紀には、多くの人が、二〇世紀には何が起こるだろうかと色々な予測をしました。テレビの普及、超高速

旅客機の開発、七日間世界一周旅行など、この百年間でその八割は実現されました。

人間の願望は、より速く、より豊かに、より多くという人間本来の欲望からなっています。そしてその欲望によってさらに多くの物が造られ、使われるようになった結果、大量のエネルギーを消費し、大量の廃棄物が排出されるようになりました。大量生産、大量輸送、大量消費、大量廃棄の四点セットが私たちの生活を支えているのです。五〇〇万年の人類史上、最も大きく変化したのが現代です。

＊

一方人間には生物学的制約があります。昭和二〇年代に人生六〇年と言われた日本人の平均寿命は、八〇才を超えました。

また、世界の人口が数百人のレベルまで落ち込むという危機を乗り越え、一八二〇年に十億人に達したあとは急激に増加し、二〇三〇年には八〇億人になると言われています。生物学的バイオマス（生物総体量）でみると、哺乳動物では人間が第一位、アザラシが第二位です。

これだけ増えた人間が、資源を無制限に使用することが許されるのでしょうか。

江戸時代、共有林に燃料の木を取りに行く時には、ひも一本とナター丁しか持つて行けませんでした。これで一人が採る木の量が制限され、人間の利用する資源が一定に保たれ、資源の共有化が図れたのです。

現在日本人はこういった制約を取り払ってしまったが、今こそ私たちは何らかの仕掛けを作らなければならぬでしょう。

＊

人類には輝かしい未来が見えているかのようなのです。基礎的カロリーを満た

し、長生きすることができます。タブーが無くなり、自由に発言できるようになりました。好きなところに住み、好きな宗教を信じることができ、重労働からも解放され、こんな幸せな時代はないと感じています。日本の穀物自給率は二九%ですが、世界のG N Pの一八%を占め、これを日本の輝かしい勝利だと思っています。

しかしその一方で環境という新しい制約に遭遇しています。今や私たちの夢の一つ一つが悪夢となりつつあるのです。農業生産は上がらないのに人口は延び続け、世界の土地の三分の一が酷使によつて破壊されています。漁業も危機的です。理論的な許容を越えて漁業が営まれ、東京に入ってくる魚の八割が輸入品です。過去三、四〇年の人類の繁栄は、地球の限界を越えて資源を浪費するものでした。しかし、第一次産業を荒廃させ、地球全体のシステムを破壊しながら生活を続けた結果、環境は危機的な状態を呈しています。

このような時代に、私たちはどうすれば地球環境問題に対応できるのでしょうか。

日本人は結果が出ないと行動しないところがあるので、人が生活できない状態まで環境が悪化するまで座して待つ必要があるかも知れません。

しかし、シンガポールのように生活を法律で厳しく制限する方法があります。環境税などの経済的な力を利用する方法もあります。また、小学校から環境教育に力を入れ、環境保護の行動を起こすことのできる人を育てていくこともできます。さらに、環境保全の技術革新など様々な方法がありますが、これらのベストミックスが最も効果的なでしょう。

「マンスフィールド環境国際会議」公開講演会

五月二九日(月)、本学大講義室で「マンスフィールド環境国際会議」公開講演会が行われました。

この公開講演会は、水俣市で実施された「マンスフィールド環境国際会議」に先立ち、アメリカ・モンタナ州にあるマンスフィールド・セクターが主催し、本学も環境共生学部新棟落成記念事業の一環として特別協力をして開催されたものです(熊本県も特別協力)。

講師は、国連財団企画副会長のメリнда・キンブル氏で、一九九七年一月に京都で開催された「地球温暖化防止会議」に米国代表団長として参加したことで有名な方です。当日は、学生及び県民の方々約四〇〇人の聴衆に「二一世紀に直面する環境問題」と題して講演されました。



メリнда・キンブルさんの講演を聞いて

総合管理学部 1年 今村 裕子

地球環境の悪化を懸念し、その迅速な対策を求める声は年々高まってきた。今回のメリнда・キンブルさんの講演を通じて、種の絶滅が急速に進んでいることや、我々人間を取り巻く環境がいろいろな化学物質で汚染されつつある現状を再認識し、人間と自然とはどういう関係にあり、人間は自然に対してどういう態度を取っていくべきかを考えさせられた。

人類はその発生の過程から自然とかわり進化してきた。また進化とともに自然に対し様々な働きかけをしてきた。生存を維持するため、便利さの欲求を満たし、新たな価値を生み出す目的で働きかけることもあるだろう。こうした自然への働きかけが現在修復不可能とまでいわれるオゾン層破壊、地球の温暖化、有害化学物質による地球規模の環境破壊をもたらしてしまった。

キンブルさんはこうした人間中心主義的な環境観に対し、「人間は自然全体の中で決して特権的な位置を占めているわけでない」と異論を述べられた。まさにその通りであるとも私も思う。人間を含めたすべての生態系として地球環境の保護を考えるべきであると思う。

キンブルさんは消滅しつつある両生類、渡り鳥、魚類等の緊急な保護の必要性を強く述べておられた。地球環境問題は、それぞれが独立して起こるのではなく、大気や水、生態系を通じて相互に複雑にからみ合い、全体として一つの系を形成している。そのため地球環境問題を論じる場合には地球生態系全体の立場から長期的かつ総合的に取り組む必要があると思った。

国際環境協力については私が考えていた以上に複雑で困難なものであると感じた。

先進国と発展途上国間の環境保全と経済発展をめぐる認識の対立は避けることのできない問題となっている。しかし環境保全と持続可能な開発は不可分のものであり、国々の環境協力が強く求められていると思う。例えば先進国の技術を用いて発展途上国の経済力を高めたり、省エネルギーをもとにしたコスト削減などは的を得た方策だと言えるであろう。

今回の講演によつて私は地球環境問題の深刻さを世界の目を通して見ることができたような気がする。そして地球に生きる一つの生命、一人の人間として諸々の環境問題に対し出来る事から取り組んでいきたい。

中世和歌をめぐる雑学

鈴木 元助教教授「中世日本文学」



一人の歌人の来歴や特質を追うよりも、もっぱら歌の周囲を逍遙する方を私は好む。

たとえば、和歌に付せられた古人の注釈に導かれ中世神道書をさまよい、陰陽道書の世界に足をのばす。あるいは、かつて正月の初夢のために枕に敷いたという、宝船とともに記された奇妙な回文歌を追う中で、聖徳太子の伝を語り歩く唱導の僧侶に想いを致し、転じて歌学書の記す説話の背後に、中国において脈々と受け継がれた、ある話型の流転の様を透かし見る。また、天神信仰の実態を古記録の中に窺いながら、連歌の会席に降臨すると信じられた、その神に寄せるいにしえびとの熱い思いを、夢想する。

どんなご研究を——と問われると、一瞬のためらいをおいて「室町時代の和歌や連歌です」と答えるのが、私の常である。振り返れば、確かに和歌や連歌に関する論文はいくつも書いた。和歌資料、連歌資料を用いて論を立てるのは、お決まりの手法である。しかしながら、自らを和歌、連歌の専門家と名乗ることへの躊躇が胸を去らないのは、どうやら根本的に、私の中に詩的精神が欠如しているからのようなのだ。それゆえ歌や句の詩情の中に入り込むよりも、また、

それは、かつて和歌がどのような環境において息づいていたのか、それをたどり直す作業ともいえよう。信仰、教化、学問の場と歌を

詠む場とは、一面、不可分の関係にあつたという事情をご承知おき願いたい。また、漢籍からの知識はてきめんに和歌の表現に響く。それら中世特有の知識、教養の裾野から、和歌の意味や役割をとらえようとする探究を続けている、この頃である。



南 久則 助教授 (栄養化学)

主に小腸を対象としながら栄養学に取り組んできました。人間は一生の間に単純に計算して、なんと約一五トン以上の食物を食べ、それを消化管で処理しています。まさに *guts* ある臓器です。消化管は食物(生体外の成分)が人体と最初に出会い、食品中の様々な情報をキャッチする場所です。単なる消化吸収パイプではありません。人体内のフロンティアと言

小腸はフロンティア

えるでしょう。分かってない機能が多く残された魅力的な研究対象です。消化・吸収に関する栄養素輸送担体の実態がようやく解明されてきました。また最近、免疫との関係もクローズアップされています。

今取り組んでいる主要テーマは、食物抗原の腸管粘膜通過の点から消化管の関与する免疫異常の機構を解明することです。

が亢進し、様々な疾患(炎症性腸疾患、食物アレルギー)が起こります。抗原は、細胞内(図の②)と細胞間隙(図の③)、タイト結合を經由して体内に侵入します。その機構と調節機序は不明でしたが、最近少しずつ解明されてきました。さらに小腸上皮細胞自身が免疫担当細胞として機能するといった新しい役割も明らかにされてきました。

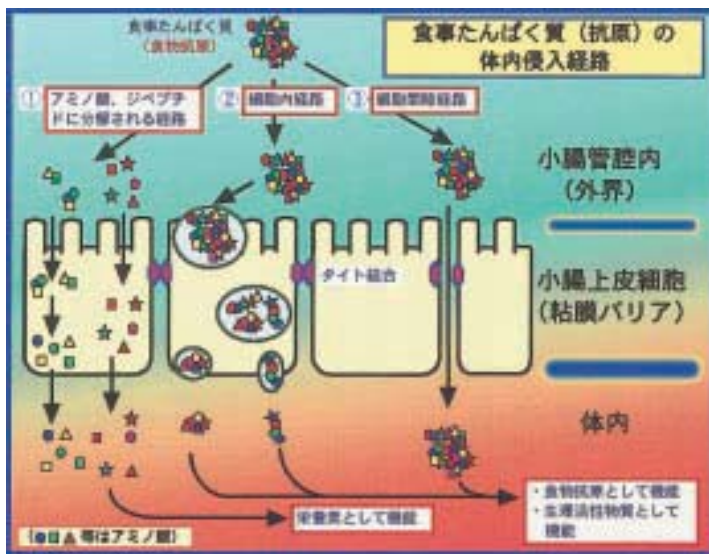
炎症性腸疾患(クローン病、潰



①の他に、外界と生体内との間の粘膜バリアとして機能し、細菌・食物抗原などの体内移行を制限しています。粘膜バリア機能が破綻した時には、抗原の体内侵入

瘍性大腸炎)の患者数は過去一〇年間で約三倍に増加しています。患者は食事の制限や、抗原を含まない成分栄養剤の長期摂取を余儀なくされています。また食物アレルギー患者でも、原因食品の制限が指導されています。このような食生活の制限は、栄養障害や生活の質(QOL)の低下の原因となります。抗原の体内侵入の機序を

解明することは、これらの疾患に対する有効な対策法につながり、患者の皆様のQOL向上に寄与出来ると考え研究を続けています。小腸以外にも、健康と栄養のことを色々とやっています。これからは、「環境と栄養」も新しいキーワードに加え、研究を続けていきたいと考えています。



張 代洲 講師（大気環境学）



専門は大気環境学で、授業は物理学Ⅰ・Ⅱ、地球環境科学、大気環境科学、物理学実験、大気環境科学実験を担当しています。

私たちが毎日吸っている空気の中にどんな粒子があるでしょう。この質問の答えを求めることが私の研究テーマの一つです。

ここで、粒子というのは直径一〇ミクロン以下、人間や動物などの呼吸器官に最も悪影響を及ぼす小さい粒で、専門的な言葉でエアロゾル粒子と呼ばれるものです。こんな小さいものを測る方法はいろいろありますが、私は電子顕微鏡を用いて個々レベルで分析します。形で見れば、空気中の粒子は球形や立体的結晶などのさまざまな様子（形態）があります。形が違う粒子はもちろん発生源も違います。形以外に、粒子の組成も測ることが

大気環境に影響する粒子とガス

できます。これらの分析で、粒子の発生源が判断されますし、粒子が大気中でいかに変質してゆくかという問題や、その空気への影響も評価できます。

たとえば、本学の正門の前で採集された粒子を分析した結果、地面からの土壌粒子、化石燃料燃焼からのスス粒子と海からの海塩粒子が数多く現れていることが分かりました。また、海塩粒子の表面に相当量の硫酸塩が見出されまし

た。

研究テーマのもう一つは、霧や雲などの生成過程に伴う水滴粒子とガス態の物質の相互作用です。数値モデルを開発して野外調査で取得されたデータに基づく数値シミュレーションが行われ、粒子と雲の相互作用メカニズムを明らかにすることがその目的です。数学的なものが多いから、詳細はここでは略します。

去年までの三年間に私はチベット

ト高原上空大気のおゾン減少について調査に参加しました。今年から中国北西部の砂漠での調査に参加を予定しており、毎年春に発生する黄砂が元々どんな粒子であるかを個々レベルで観察するつもりです。この調査が黄砂粒子の輸送途中の変質と地球規模の物質循環への影響を評価する上で大きく貢献することが期待されています。



1999年10月10日に中国チベットで大気観測の野外調査の際に撮影

進藤 三雄 助教授(言語学)



言語学というと世界中の言葉を詳しく研究する学問であるとか、

言葉と社会との関係

語源を遡る学問であるかと思ひ込んでいる人がいるかも知れない。だが日常生活で使われている何気ない会話の仕組みや文章の働きを体系的に考えることも、言語学の一領域である。

言葉は社会と密接な関係を持っている。話す相手が異なれば丁寧さの度合いや使われる表現も違ってくるし、言葉が使われる場面によっても様々な違いが生じる。話

し言葉か書き言葉かといった違いも文体などに影響を与えるし、その内容によっても表現方法や語彙は微妙に違ってくる。

このような違いを解明するためには、書き言葉を含めたひとつひとつの談話を体系的に分析していく必要がある。分析の対象となるのは、主題の流れ、主語や動詞の選択のしかた、省略や反復、倒置、照応や指示などで、談話はこのような文法的なルールを駆使するこ

を少なからず受ける。そこで生じる文法的、語用論的過ちは、母国語話者でないという理由である程度は許容されるものの、時には重大な誤解を招いたり相手に不快な気持ちを与えたりすることもある。

私たちは外国語学習者は日本語以外の言語を話す人とコミュニケーションを取る場合、このような事態を出来る

とによって、結束性のあるまとまった文脈を形成する。そしてこれらの分析を通して、どのように母国語話者が場に応じた自然な言語活動を実現しているのか、統計的に知ることができるのである。

このような文の仕組みを解明することは、当然、外国語を学ぶ際にも大きな手助けとなる。例えば外国語学習者は、作文を書いたり発話したりする際に母国語の干渉

だけ回避しなければならぬ。そのためには相手の言語と自分の言語を客観的に比較し、その裏に潜む言語観や精神世界の違いをまず理解する必要があるだろう。そうすることによって、異なった言語や文化を持つ人々

を差別したり、自分たちの文化を押しつけたりせずに、積極的にその違いを受け入れ、尊重する態度を養うことができるようになると思うからである。



ニュージーランド マッセイ大学の日本語学科の学生と



学術紀要の紹介

平成11年度に本学で発行された学術紀要を紹介します。

文学部紀要より

セネガルにおけるウオロフ化の進行と場面による言語選択／V・タンバクンダ

文学部
砂野 幸稔 教授



一九九六年度から三年間にわたる科学研究費補助金（国際学研究）によるセネガル七都市における言語調査の五番目の報告である。

西アフリカに位置するセネガルには二〇あまりの言語が存在しているが、公用語はフランス語のみである。しかし、セネガルの都市部では公用語のフランス語よりも、主要言語であるウオロフ語が事実上の共通語として用いられ、その影響力は拡大し続けている。

本稿では、セネガル東南部に位置する都市であるタンバクンダで行った言語調査の結果を分析し、タンバクンダにおいてもウオロフ語が事実上の共通語として用いられているだけでなく家庭内にも浸透し、第一言語（母語）としての話者数を拡大し続けていることを明らかにすると同時に、ウオロフ化の進行にもかかわらず、とくにバンバラ語がもうひとつの地域共通語として強い影響力を保持していること、そして、大多数

の人々が主要な共通語のウオロフ語と地域共通語のバンバラ語、そして自らの第一言語をはじめとする少数派の地域語を、場面によって使い分けることによって、三言語から四言語の複数言語使用を続けていることを明らかにした。



セネガル東端の町バケルにて。世話になった識字局職員の家で



調査の合間の息抜き。セネガル川河口にて、調査助手たちと

●文学部紀要

第6巻第1号 1999年12月

- 事態の自律性と自他交替村尾 治彦
- セネガルにおけるウオロフ化の進行と場面による
言語選択：IV. ボドール砂野 幸稔
- English in Aotearoa/New Zealand:
Post(?)Colonial Identities.Farrell Cleary
- 褚伯秀『南華真經義海纂微』の採註態度について山田 俊

第6巻第2号 2000年3月

- 自他動詞間のゆらぎと構文村尾 治彦
- セネガルにおけるウオロフ化の進行と場面による
言語選択：V. タンバクンダ砂野 幸稔
- 「語り」の位相三木 悦三
- Conceptual Blending between Constructions:
the Case of (*Just*) Because A doesn't mean B清水 啓子
- 学部留学生のための内容重視の日本語教育
ーテーマを中心としてー梅田千砂子

●環境共生学部紀要

第1巻 2000年3月

- 環境共生論：食と健康の立場から菅野 道廣
- 21世紀の社会に求められている環境との共生堤 裕昭
- 食品中の抗アレルギー成分の検索加来志保子、柚木 真一、大倉 健一
大司麻利子、野中美智子、菅野 道廣
立花 宏文、山田 耕路
- 英語授業での期待：学生へのメッセージジェー メルトン
- 共生の風景ー日本の住まいと風土文化（前編）大岡 敏昭
- 柳川の堀割「再生」について考える
ーフィールドワーク実施報告ー坪原 紳二
- 共有から共生へ山田 俊弘

●アドミニストレーション

第6巻1号 1999年9月

- 論 説
- 日本版ビッグ・バンが農協信用事業に与える影響秋山 喜文
- インターネットを利用した科学実験システムの一構想税所 幹幸
- Language class-size survey findings, 1998-99:
If 'small' is not small, then bigger is better?Paul A. Beaufait
- Andragogy in English as a Foreign Language Classes
at Prefectural University of KumamotoDaniel T. Kirk
- もう一つの総量規制？
ー統計行政改革の課題と展望ー原田 久

第6巻2～3合併号 2000年2月

- 研究ノート
- 社会科学系学部における情報科学（コンピュータ）教育（その2）
ー情報システム構築の詳細ー藤尾 好則
- 論 説
- アメリカ経済社会と対外金融問題
ー主に第一次大戦直後の銀行家達の見解を中心にー松尾 隆
- 法と正義
ー思想的考察ー永尾 孝雄

●LANGUAGE ISSUES（外国語教育センター紀要）

第6巻1号 2000年3月

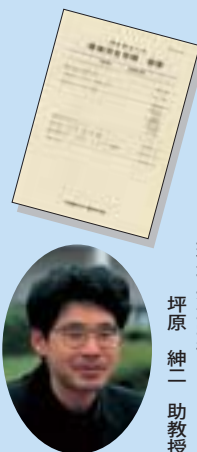
- 特定の目的を持った学生のための英語教材作成
：学部全体を対象とするニーズ分析JAY MELTON
- 日本人の外国語学習における第一言語のイントネーションの悪影響
.....JEFFREY STEWART MORROW
- 文法教育効果についての指標的調査DAVID TOMLINSON
- 俳句の韻律と模倣に関する諸問題
ー日本語と英語の俳句形式の新たなパラダイムを求めて
.....RICHARD GILBERT and JUDY YONEOKA
- 過去5年間のLanguage Issuesを総括してDAVID TOMLINSON
- 投稿規定の改定JAY MELTON

環境共生学部紀要より

柳川の掘割「再生」について考える —フィールドワーク実施報告—

環境共生学部

坪原 純一 助教授



環境共生学部には、一年生を対象とした「フィールドワーク」という科目があります。

現場を体験させ実証的教育を行うことを目的としており、各教員がテーマを設定し、その中から学生が専攻に縛られることなく、関心のあるテーマを三つ選ぶことになっています。

筆者は都市計画が専門なので、環境との共生、あるいは住民参加・住民主体といった点で、興味深いまちづくりを進めている自治体を訪ね、調査を行いたいと考えました。そして、かつて映画『柳川堀割物語』で全国にその名を知らしめた、水郷・福岡県柳川市を対象地区に選びました。映画には、柳川の人々と堀割とのわずらわしいが豊かなつきあいや、そのつきあいが一度壊れ、荒廃してしまった堀割を住民総参加で再生していく様が、美しく生き生きと描かれています。フィールドワークでは、柳川の堀割再生の取り組みを学ぶことを通じ、自然との共生や住民参加の大切さについて考えてもらうことにしました。本稿は、このフ

ールドワークの内容を報告しつつ、柳川の堀割再生の経緯、現状について紹介し、その上で『柳川堀割物語』を試論的に再考しています。

現地調査では参加した学生一四名とともに、地元の方々とヒアリングを行いました。堀割への関心は非常に低いものでした。また堀割は、観光用の川下りコースを除くと総じて汚れていました。こうした調査結果及び「再生」期の行政文書を基に、本稿は、当時の堀割再生が内発的な住民の要求に基づくものではなく、むしろ行政が決めた計画への住民動員であり、そのことの限界が現在露呈しているのではないかと、問題提起しています。



美しい景観の川下りコース



汚れた一般水路

LANGUAGE ISSUES (外国語教育センター) 紀要より

特定の目的を持った学生のための英語教材作成／学部全体を対象とするニーズ分析

環境共生学部

メルトン ジェー 講師



「大学生生活だけでなく卒業後の職務にまで役立つスキルを教える」それは、教育学、教授法、常識の観点から見ると当然の事です。外国語をネイティブスピーカーのように駆使で

きるまでになるには、約六〇〇時間の勉強を要すると言われています。環境共生学部二年生までの外国語四クラス全てを英語にしても約一八〇時間にしかありません。このように限られた時間の中で、どのような教授法が学生にとって一番の利益になるかを私は常に問い続けています。

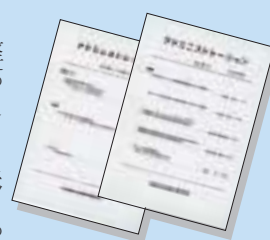
私は環境共生学部で教鞭を取るにあたり、学部の先生方に「学生にどのような英語を習得してほしいか」を調査しました。主にどの英語のスキル(会話、リスニング、リーディング、ライティング等)が、そしてどの種の科学専門英語(一般科学、栄養学、居住学、環境学、その他)が重要と思うかという二点に重点を置きました。

総合管理学部紀要より

インターネットを利用した科学実験システムの一構想

総合管理学部

税所 幹幸 助教授



最近のインターネットの普及状況は目を見張るものがある。その発展は、パソコンの低価格化・通信コストの軽減・プロバイダー数の増加といったインターネットの利用環境が格段に整備されてきているためと考えられる。家庭におけるインターネット利用は、今後ますます確実に広がっていくであろう。

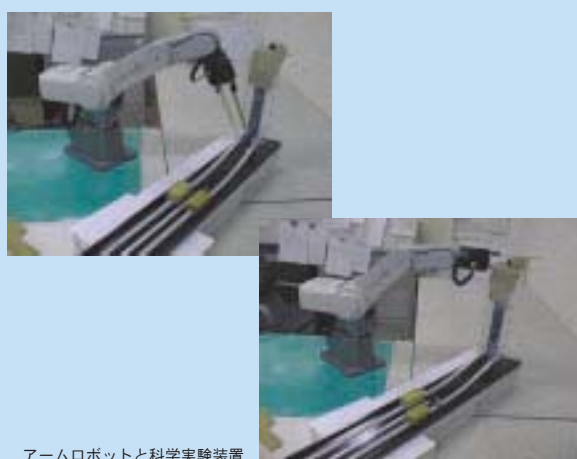
インターネットを利用した教育、特に科学実験教育に限って考えると、従来は静止画や短い動画等を利用して実験経過の説明を提示する方法がおこなわれている。これらの方法は、教師側からの一方的な説明となりがちで、学習者にとっては理解が進まない場合も起こり得る。したがって、筆者らは、科学実験を取り入れた教育では教師による科学実験の概要説明のみならず、学習者が科学実験を試みる事が重要だと考えている。

本稿では、インターネットを利用できる場所から学習者がアームロボットを介して科学実験装置を操作

全体的な結果はリーディング、リスニング、ライティング、会話の順に重要となりましたが、居住環境学専攻と食・健康環境学専攻ではライティングよりも会話とリスニング、生態・環境資源学専攻では会話とリスニングよりもライティングが重要という結果になりました。

次に「どのような科学専門英語を身につける事が学生にとって大切と思うか」を聞いてみました。四三%が一般科学を選び、続いて環境学、居住学、その他、そして栄養学となりました。結果、専門分野に進む前に学生は一般科学でバックグラウンドを固めておくべきだという解釈に至りました。その他に得た情報として、六四%の先生方が現在授

し、その実験の様子を観察できる科学実験システムを提案している。学習者は実験の様子をビデオカメラの映像で観察しながら、学習者自身が間接的ではあるが科学実験を試みる事ができる。このシステムの特徴は、インターネット上で実際に実験できること、学習者は自分のペースで学習することができ、科学実験装置の共有化ができること等である。現在、熊本学園大学の堤教授および本学の松野教授らと共同で本システムの開発を進めている。



アームロボットと科学実験装置

業で英語を使っている、又は将来使うつもりでいるというのがありました。様々な状況で外国語に親しんでいる学生は授業に対する態度にもやる気が出てくるので、この回答は私にとってかなりの励みになりました。加えて、大半の先生方が学生の語彙、文法、発音等「全て」の面で更なる上達を指摘されました。

この調査はあくまでも予備的なものです。将来学部内で英語教授法がどのように進化していくか、また教員もそれに伴いどのように成長していくかを知るために、頻繁な再調査が必要です。次のステップは学生に「どのような授業を要求するか」アンケートを取る事。そして授業で学んだリーディングや科学専門英語がどのように役立ったかを調査する事です。

我が師



文学部 徳永紀美子 助教授〔アメリカ文学〕（写真後）

「小島君、今は我慢の時よ。」
 そう彼女はささやいた。見る人を
 包みこむような、その澄んだ目が
 ジーツとこっちを見つめている。
 やさしさ、情熱、愛、愁いなど、
 すべての人間的要素がその目には
 込められていた。その瞬間、僕は
 彼女にクラツときてしまった。
 （笑）

である。ある時は教室を抜け出し、
 芝生の上での青空教室。あぐらを
 かく姿が最高（笑）の彼女にどこ
 か自由の香りが漂っている。
 ちよつと天然入つてゐる彼女。た
 まに訳の分からん事を口走るも
 んだから、ツツコミは僕がしてあ
 げないとね。でも、彼女と話す度
 に思うこと。それはこの人と二人
 きりでメキシコ産コロナビールが
 飲めるようになるには、あとどれ
 だけ自分に磨きをかけ、レベラア
 ヅプしていかねければならないの
 か・・・

Time will tell,
 so
 let
 it
 be...



文学部英語英米文学科3年
 小島 慎司



総合管理学部 野村 武 教授（情報システム論）（写真前列右端）

先生は総合管理学部で「情報シ
 ステム概論」や「情報と社会」な
 どの科目を教えておられる「情報
 システム」のエキスパートです。
 専門演習でも、システムアドミニ
 ストレーションを中心に、電子マ
 ネーやコンビニ、銀行などの電子
 決済などを細かく教えていただき
 ます。

先生は飲み会、旅行が大好きで、
 私達ゼミ生とは何回もお酒を飲
 み、就職や進路について助言をい
 ただきました。飲み会の時は、先
 生の西日本新聞社時代のプライベ
 ートな話や、私達ゼミ生の長所、
 短所まで様々なことを話されま
 す。いつも笑顔で私達に自分の息
 子、娘のように接してくださるの
 で、気軽に研究室へ相談に行くこ
 とができ、私にとっても就職活動
 の大変な時の最後の頼み綱という
 存在であつたように思います。

いつも私達は先生の粹な博多弁
 を聞きながら、楽しくゼミを受け
 ています。野村先生は県立大学の
 中でもとても学生思いの良い先生
 だと思っています。時には厳しく、私
 達に指摘、アドバイスしてくれる
 先生の博多弁を研究室に聞きに行
 つてみてはどうですか？

粹な博多弁は
 先生のシンボル？



総合管理学部総合管理学科4年
 遠山 茂

過去との遭遇

総合管理学部 教授 松岡 泰

(平成11年7月〜平成12年7月まで
アメリカに留学研修)



マーシュと呼ばれる海水の湿地帯

随筆

並んで南部料理
ないしはニュー
オーリンズ料理
を指す言葉とし
て知られている
が、ケイジャン
文化の中心地は
ニューオーリン
ズから西に四〇〇キロくらい
の所にあるラファイエットと
いう街の周辺である。もとも
とはフランスからカナダに移
住し生活していた人々が、十八
世紀中頃イギリス植民地政府
の迫害にあい、この地に逃れ
てきたのである。

(一) 古きヨーロッパとの出会い

アメリカと言えば、誰しも「歴史
のない国」「現代的な世界」と考え
がちであるが、ヨーロッパではとう
の昔に死滅してしまった古い世界
が、アメリカには意外と残っている。
その典型が、ハリソン・フォード主
演の映画「刑事ジョン・ブック／目
撃者」で有名になったアーミッシュ
の村である。村人は今でも二〇〇年
くらい前の生活習慣を頑なに守り続
けており、交通手段として馬車を利用
し、電気を利用しないので洗濯物を
を干し、服装も昔と同じである。

もう一つはケイジャンである。ケ
イジャンという言葉はクレオールと
アイエットにかけては、バイユーと
呼ばれる大湿地帯が広がっている。
船に乗ってその湿地帯に入ると、ス
パニッシュモスという蔦が木から垂
れ下がり熱帯のジャングルのよう
で、野生のワニが至るところにおり、
複雑な地形は迷路のようになってい
る。外界から遮断されたこのような
地で隠れるようにひっそりと暮らし
ていたため、ケイジャンの言葉（古
いフランス語）と文化は継承されて
きた。



スパニッシュモスが垂れ下がるニューオーリンズ郊外の淡水の湿地帯

(二) 戦後日本との出会い

アメリカの首都ワシントンの郊外
にメリーランド大学カレッジ・パー
ク校があり、私はその客員研究員
であった。

この大学の中央図書館はマツケル

う。アメリカのケベック（カナダに
あるフランス語圏の都市）といった
感じである。ケイジャン文化センタ
ーに行き三〇分くらいのビデオを見
たが、年離れた女性がナレーション
を通して迫害と流浪の歴史を持つこ
の民を紹介する構成になっていた。
怨念が込められているような内容で
アメリカの街を紹介するには異
様であり、忘れがたい。

ディン図書館と呼ばれ、その地下
に日本占領期の貴重図書を集めたブ
ランゲ・コレクションという特別室
がある。当時の印刷物は紙の質が悪
くて傷みが激しく、保存の目的で数
年前まで学内の研究者ですら立ち入
りが厳しく制限されていたという
が、数年前に方針が変わり公開され
るようになったという。日本やアメ
リカの財団からの寄付や日本の国立
国会図書館からの協力もあり、資料
の整理や保存、それにマイクロフイ
ルム化の作業が毎日行われている。
内容を概略すると、図書類が約八万
二千冊、新聞が約一万七千タイトル、
雑誌が約一万三千タイトル、検閲文
書が約六〇万ページ、通信が約七〇
万ページである。

周知のように、戦後の日本は連合
軍総司令部の占領下にあり、すべて
の出版物は一部検閲局に提出され
た。メリーランド大学の歴史学部教
授であったゴードン・ブランド博士
は当時この司令部に勤務しており、
すべてのジャンルにわたる用済みと
なった出版物（一九四五―四九）を
持ち帰り、それをメリーランド大学
に寄贈した。これには日本では散逸
してしまったものが数多く含まれ、
当時の政治社会情勢を知る上で第一
級の資料であるだけでなく、検閲の
内容を知る上でもこれは貴重なコレ
クションである。

説明を受けて先ず驚かされるの
もよらなかつた。

ボルチモア・オリオールズのホーム・グラウンド、キャムデン・スタジ
アム。7〜8年前に伝統的スタイルの屋外野球場を作り、それが人気を博
したため、今ではドーム式の野球場は人気をなくし、次々に爆破、解体
されている。熊本はドーム式でない本格的な屋外野球場をもっており、
大切に維持すべきだと思う。



思い出づくり

大学ではいろんなところに行けるサークルに入りたかったの
で、サイクリング部に入りました。希望どおりに、活動の日には
行ったことの無い様々な場所に連れていってもらいました。
そして、夏休みのツアーに行った後、本当にこのサークルに入
ってよかったと実感しました。

一年の時には伊豆大島に、二年の時には奄美大島に行きまし
た。観光協会などから資料を送ってもらい、観光する所も、宿
泊所も、いちから自分たちで計画するこのツアーは大変勉強に
なりました。また、現地では、地元の人々の優しさに触れなが
ら走りました。雨が降ったときにレインコートをくれたり、ひ
どい坂のあるところでは、バスに自転車と共に乗せてくれた方
もいました。

しかし、いい事ばかりではなく、伊豆大島ツアーでは梅雨、
奄美大島ツアーでは台風に遭い、天候には恵まれませんでした。
その事も今思い出せば、貴重な体験です。雨の中、びしょ濡れ
になりながら自転車に乗る事も、ぎしぎしとなるパンガローの
中で一夜を明かす事も、普通ではなかなか体験できないでしょ
う。正直に言って、観光したきれいな所や、めずらしい所より
もこういつたみんなで苦労した事や失敗した事の方をいつまで
も忘れないと思います。

もうすぐ就職活動が始まり、その後には、上手く行けば就職
です。こういった、思い出になるようなことはそう簡単にでき
なくなるでしょう。大学時代にたくさん思い出を作っておいた
ほうが良いとよく聞きますが、本当にその通りだと思いました。



左から2番目が高山さん

文学部日本語日本文学科2年

高山 知子

体得

環境共生学部環境共生学科
生態環境資源学専攻2年
穂屋下 美穂



前列中央が穂屋下さん

環境問題を考える上で、本などから多くの知識を養
うことは重要なことです。しかしながら、そのような
知識だけでは、様々な事実が漠然として真実味を帯び
てきません。大学に入るまで、環境問題に関する知識
は本から得られていたが、それらを実際に目にし、
体感し、諸問題について深く考えることは無いに等し
かったのです。しかし、昨年、実際にフィールドに出
て学ぶ機会が与えられ、自分の無知さと、疑問を抱き
考えるという姿勢の欠如に気付かされました。また、
モンタナへの冬期研修に参加することで、雄大な自然
と寛大な人々に触れ、今までの自分を見つめなおし、積
極的に行動を起こす良い機会になりました。
それから、先生方の研究室をしばしば訪れるように
なりました。親切にも先生方は、億劫がらずに相手をし
てくださり、さらには様々な機会までも与えてくだ
さったりして、自分の知識や経験を高める手助けをし
てくださっています。

また、様々な活動をしている学生と交流することで、
より多くの意見や情報の交換が得られ、新たな人間関
係が築き上げられています。

まずは自分の身近な環境、つまり人、文化、そして
自然とどうふれあっているのかに体得するかが、自分の間、
私の課題です。それが結果的に、"think globally act
locally"へと結びつくのではないかと期待しています。

VO

自分から動く

きつ かけなんてなんだっていいとも。劇的なドラマなんかがない、事故や災害、失恋だつてきつかな。とにかく自分から動き出す。私は以前、夢とか目標とかを持っている人が苦手でした。きつとそうを批判的に、そして知ったような口をきくことが大人だと思っていた。格好の良い事だと思つてさえい諦める事ばかりしてしまつた。そのせいで「大学4年間で自分のやりたい事を探すんだ！」と自分に言い聞かせるのもがいていたのです。そんな私がかけて去年の秋頃からいろいろなアイデア立案・提案サークル「企画アイ人」を立ち上げました。何か目標がある人、何か目標を探している人を応援したい。来何らかの社会と自分自身の将来サークルです。そんな事を始めた次々と出会い、目標を持っている人、目標が生まれてきました。今では夢とか目標とかを持っている人が大好きになりました。きつと自分がそうなり始めてきたからです。きつ かけなんてなんだっていいとも。劇的なドラマなんかがない、事故や災害、失恋だつてきつかな。とにかく自分から動き出すこと、そして何かが変わります。



総合管理学部総合管理学科3年
小宮 仁至

小宮君

サークル便り

瑠璃若葉

総合管理学部

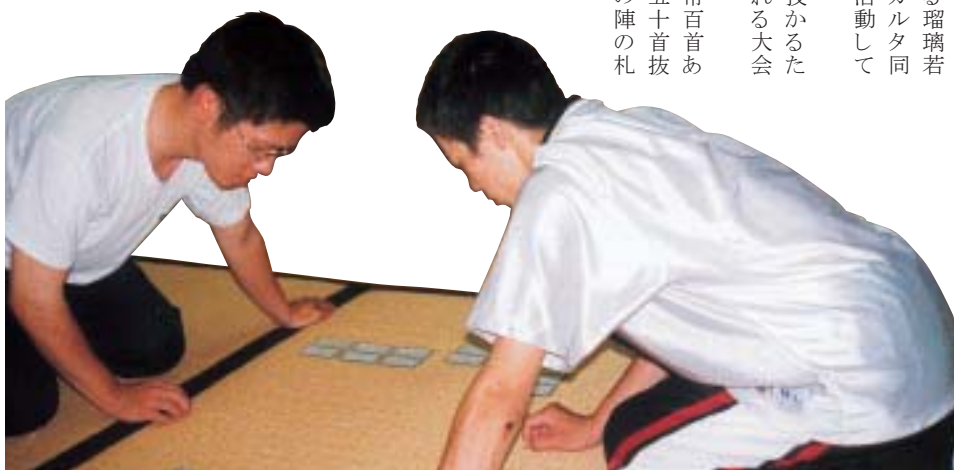
1年 宮村 信也

私たちが所属している瑠璃若葉は、一言で言うところ「カルタ同好会」で、現在七名で活動しています。

主な活動内容は、競技かるたの試合及び地域で行われる大会や行事への参加です。

競技かるたとは、通常百首ある歌の中から無作為に五十首抜き出し、より早く自分の陣の札

をなくす事を目的とする競技です。
現在では子どもから大人まで楽しめる競技として、全国各地に幅広く普及しており、生涯教育の一環としても注目されています。



ユイマール

文学部

3年 神蘭麻智子

ユイマールは去年三月に設立したサークルです。
まだ、ホヤホヤのサークルですが志高く、楽しく活動しています。

最近の社会問題としてクローズアップされている環境問題を中心に、行動中心（かつ考える）の週活動を行っています。

牛乳パックで紙すきしたり、アクリルたわしを作ったり、気軽に環境問題を考えるきっかけづくりの催しを行ったり、環境共生学部の篠原教授にお話をうかがうような学習会も行っています。
部会は火曜日昼休みにしています。



Maple Leaves のメンバーと

空手部

文学部

2年 渡辺真理恵

現在私たちは、一年生一三人、二年生一〇人、三年生三人、四年生一〇人の合計三六人で活動しています。

毎週火曜日と水曜日に、第二体育館・柔剣道場で午後六時から八時くらいまで、実践組手を中心に練習に励んでいます。

サークル活動の他にも、出水にある真武館道場に、試合を目指し努力する人が数名通っています。今後さまざまな大会などに参加し、各人の努力の成果や、実力を試せるよう、又、大会に参加しない人も、それぞれの目標に向かって努力し、空手を通して何かを学び取ることが出来るよう、練習に励みたいと思います。





平成7年度卒（生活科学部・食物栄養学科）
加来志保子
（熊本県立大学環境共生学部勤務）

「思いっづけること」が 大きな力です

母校に戻って助手として働き始めてから二年目になりました。実習などで学生の皆さんと接しているのと、？年前の自分達を見ているようで、何だかすぐつたい気持ちになります。研究者としてはまだまだ未熟者ですが、今思えば、私は、これまでに少しずつ自分の夢をかなえてこられたような気がします。実は、第一志望に不合格だったショックでかなりふてくされていました。しかし、講義で「大学とは自分が何を学ぶかということ」を学ぶところだ。と、というのを教えられ、「そうかあ。」と思い直して（この単純さがよかったのかも知れませんが）、自分が何をしたいかを考えてみたのです。そして大学院に進学したい、栄養学を研究しながらご飯を食べていきたいと考えた時、たくさんのおドバイスを下さった先生方や励ましてくれた友達に出会うことができました。そして今の自分がいるのだと思います。

大切なのは「夢を見る自分自身」と「思いっづけること」。思うことに早い、遅いはありません。無駄もありません。思い立ったが吉日。私もまだ歩き始めたばかりです。

卒業生からのメッセージ

message for you

ある日、仕事の合間にEメールの受信チェックをしていると大学の恩師より一通のメールが届いていました。内容は本メッセージの原稿依頼。先生とは大学卒業後も交流があり、またEメールでやり取りをしていたので、その日のうちに引き受ける旨、返信しました。

二〇〇〇年ミレニアムはIT（情報技術）革命の真只中。現在の仕事でもインターネットをフル活用しなければ、効果的な実務ができないだろうと実感しています。一方で生活の中でも、iモードをはじめとする情報携帯端末のように極めて利便性の高い機器が普及しています。

このような時代に生活している皆さんに私からのメッセージとして、アンテナを張り巡らすことの必要性を送ります。アンテナとは情報を受信・発信する機能を持つことを意味しますが、時代の流れや変化を的確に受け止め、自ら情報を発信する意識を皆さん備えてみてはいかがでしょうか。

私は性格柄、色々な事象やモノに関心を持ち触れてみるのですが、そのためにパソコンなどの新しい機器を活用して得た情報を今の実務の中に大いに活かしています。

せっかくなので、私同様皆さんもトライ！している、全く違った情報にも触れることが、あなたのアンテナがますます敏感になりますよ。

右が木本君



平成9年度卒（総合管理学部）
木本 拓郎
（金剛株総合企画グループ企画チーム勤務）

あなたの 情報アンテナがビィビィビィ!!

The Letter from Sangmyoung 韓国祥明大學校留学報告

本学では、大韓民国祥明大學校と最長一年間の留学生相互派遣を実施しています。

このたび留学中の豊島雅さん（総管4年）と瀨上裕子さん（日文3年）、一年間の留学生生活を終え、二月に帰国した松崎愛美さん（日文4年）からレポートが届きましたのでご紹介します。

●豊島 雅さんの レポート

一つの目標

こちらでの生活も三ヶ月目に入り、また新たな気持ちで毎日を送っています。

日本と韓国の違い。違いはもちろんだたくさんあります。ですが、文化・習慣・経済等の違いで、現在までに私が感じたものは、そのほとんどが日本に居ても知り得る事であったり、本当に些細な習慣の違い等です。

ただ意外だったことは、韓国の人たちが思っていた以上に親切だったということです。過去の問題が色濃く残っているというイメージを強く持ち、だからこそ韓国への留学を決心した私にとって、とても不思議な感じがしました。日本語日文学科の友人たちは、殆ど韓国語が話せずに来た私に、日常生活に必要なことだけではなく、熱心に韓国語を教えてください、週末はいろんな所へ連れて行

ってくれたり、もうすでに感謝しても足りないほどに、よくしてもらっています。また、他の学科の学生やコンビニのおじさんたちも、韓国語が下手な私に対して積極的に声をかけてくれ、多くの友人や知人を作ることができました。

私には、一つの目標があります。私には一人、今軍隊に行っている同じ年の友人がいます。彼は大学二年生を終えてから軍隊に行つたため、殆ど日本語が話せません。私と初めて話をした時から、ずっと韓国語のみでした。はじめのうちはもちろん会話にはならず、辞書を片手に、必死で何でもない会話をしていました。彼が他の友人たちと違うのは、私が韓国語しか使えない相手だということ、そしてたとえどんなに時間がかかっても、諦めずに最後まで話を聞いてくれることです。軍隊には休暇が年に数回しかないので、会う機会が本当に限られています。時間がある人と連絡をくれるので、その

時にそれまで覚えた言葉を使つて、前より多くの事を話すようにしています。

私の目標は、日本に帰るまでに彼と普通の会話をする事です。いろいろな意味で今までは違うタイプのの人と知り合えたことは、私にとって大きな出会いです。

韓国での生活も三ヶ月目に入り、良いところばかりではなく、そうではないところも見えてくるようになりました。どうしても合わないところもあります。ただ、ここできかない事、今しかできない事、今だからできる事を一つでも多く経験できるように、自分のやり方で過ごしていきたいと思っています。

●瀨上裕子さんの レポート

言葉の問題



独立記念日にて（左から2人目豊島君、右から2人目瀨上さん）

「チャルガ」「チャリッソ」。韓国語に少しでも触れたことのある人なら大抵知っているであろう、このあいさつ。「チャルガ」は、直訳すると「良く行つて」となり、別れる際、どこかへ行く人にかける言葉で、「チャル イッソ（普通のスピードで言う）とチャリッソとなる」は、「良くいて」「別れる際、その場に残る人にかける言葉である」。

わたしも、韓国に行く前、この程度の言葉の勉強はしていた。でも「チャルガ」「チャリッソ」も「さようなら」程度の理解しかなく、これがどれほど活躍するのか、その時は全く想像もしていなかった。

さて、韓国の生活である。私がこちらへ来てからというもの、この「チャル」を聞かない日があつたであろうか。

私の近況を聞くときは「チャル チネ?」「良く過ごしてる?」「私がかどこへ行くときは「チャル カッタワ!」「良く行つておいで」「私がお飯を食べた後には「チャル モゴッソ?」「よく食べたよ?」「私が貸した本を返すときは「チャル パッソ」「良く見たよ?」「などなど。「チャル」「良く」という形容詞は、とにかくいろいろな動詞についてしまう。

だが、これを日本語にしようとしても、その気持ちをそのまま表せる言葉は見つからない。そのため、クラスメイトが作文や手紙で「良く」などとよく使うのを、

どう直したら気持ちを汲み取りつつ日本語らしくできるのか、本当に悩むことが多かった。しかし、その段階では、まだ韓国人の感覚



大学内のベンチにて（後列左 瀨上さん、前列右 豊島君）

をどう日本語で表すかで悩んでいたのだが、そのような韓国語を毎日聞き使っていると、最近、私まで「良く」という感覚でものごとく感じるようになってきてしまった。私が日本人相手に「良く行つてきましたか?」などと言つてしまっているのだ。これこそ言葉の問題ではないか。日本語教師になりたいと思っている私の日本語が、こんなことでもいいのか!と思う毎日である。

そんな毎日が、「チャルジャッソ?」「良く寝た?」で始まり、「チャルジャ。ネックムックオ!」「良く寝て。私の夢見てね!」で終わっていく。

●松崎愛美さんのレポート

私の懐に飛び込んできた韓国

この一年間でわたしを得たものは、韓国人の深い情。

わたしは盗難にあつた時、ごめんねと本気で涙を流した友達が忘れられない。いや、困った時だけではない。すべてを分け合う、腕を組んで歩く、相手の家族まで思いやる・・・普段の生活の中から、韓国人独特の情が伝わってきて、それがわたしにも派生したようだ。

わたしにとって韓国は、一生付き合っていきたい国である。

このような機会を与えられたことに感謝するとともに、熊本県立大学と祥明大の友好がますます深まっていくことを願ってやまない。



アンニョンハセヨ

祥明大からこんにちは

本学では、本年四月に韓国祥明大から李 正玉(イ ジョンオク)さん、金 楨沃(キム ジョンオク)さん、金 妹英(キム ジュヨン)さんの三人の留学生を受け入れました。

三人は、平成一三年三月までの一年間、文学部日本語日本文学科に所属し、日本語や日本文学を学んでいます。



左から キム ジュヨンさん、イ ジョンオクさん、キム ジョンオクさん

ベンチャー講座始まる

就職支援を目的としたベンチャー講座を新たに開設しました。六月二〇日、第一回の講座には三年

生を中心に二十数名の学生が出席しました。当講座では、(株)プレシードの松本修一社長をはじめ、県内の獨創性あふれるベンチャー企業の社長を講師として予定しています。また講座の後半には、実際に学生自らのアイデアによる起業化モデルの検討・発表を行うなど、ベンチャーマインドを高める実践的な講座内容となつていきます。

この他にも本学では、次のよう

な講座を開催し、学生の就職支援を図っています。

各種就職対策特別講座一覧

- ◎公務員講座
二年次一〇月から四年次六月まで
 - ◎マスコミ講座
三年次六月から一二月まで
 - ◎ベンチャー講座
全学年六月から一二月まで
 - ◎シスアド講座
(情報処理技術者国家試験)
全学年五月から一〇月まで
- 【平成一二年六月三〇日現在】

祥明大へ初の短期研修団派遣!!

初年度から、初の試みとして祥明大へ短期研修団を派遣することになりました。

今年度から、初の試みとして祥明大へ短期研修団を派遣することになりました。期間は平成一二年八月二八日(月)から九月四日(月)までの七泊八日で一〇人の学生を派遣します。

研修団は、討論会、百済文化探訪、ホームステイ等を通して学生との交流を深める予定です。

公務員ガイダンスに多数の学生が参加

七月一三日に二年次、三年次の公務員志望者を対象としたガイダンスが開催されました。約二〇〇人の参加があり、近年の公務員志望者の多さをうかがわせるものとなりました。

参加した学生は、総合管理学部石橋教授などから「二一世紀の公務員像」をテーマとした講話や公務員試験の概要と対策についての話に熱心に聞き入っていました。本学では、公務員試験合格を目指す学生を対象に一〇月、二年次からの公務員講座を開講する予定です。

インターンシップ(職業体験実習)の実施について

インターンシップとは、在学中に専攻分野や興味のある業種の民間企業等の職場で、実際に仕事をを行い、自らの就業意識を明確にし、将来の進路決定の参考に資することを目的として平成一〇年度から実施しているものです。

本年度は、夏季休業期間中の八月に実施、募集対象を二、三年次に広げ、県庁などの行政機関や熊本日日新聞などマスコミをはじめとする民間企業など二十数社、五〇名程度の参加を予定しています。



第2回ベンチャー講座(H12.7.4) (株)トランスジェニック 代表取締役 井出 剛氏

平成13年度

入学者選抜概要公表

本学では、平成13年度入学者選抜概要を6月下旬に公表しました。

昨年度と変更した主な点は次のとおりです。

- 1) 環境共生学部及び文学部の個別学力検査の試験教科・科目、配点を一部変更しました。(総合管理学部は変更ありません。)
- 2) 文学部の前期・後期日程で募集人員を変更しました。
- 3) 英語英米文学科で推薦入学募集人員を3名増やし、7名としました。

詳細については、学生部教務課(096-383-2929【内線215,203】)にお問い合わせください。

また、最新の入試概要や過去の入試結果を、本学ホームページ(<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>)の「入試情報」ページで公開しています。

こちらどうぞご利用ください。



平成13年度募集人員

学 部	学科・専攻	定員	募集人員			
			一般選抜		特別選抜	
			前期日程	後期日程	推薦入学	社会人・ 帰国子女・ 私費外国人留学生
文 学 部	日本語日文学科	40	30	6	4	各若干名
	英語英米文学科	40	20	13	7	各若干名
環境共生学部	生態・環境資源学専攻	20	14	4	2	各若干名
	居住環境学専攻	40	28	8	4	各若干名
	食・健康環境学専攻	40	28	8	4	各若干名
総合管理学部	総合管理学科	280	120	A方式 45	50	各若干名
				B方式 45		
				C方式 20		
合 計		460	240	149	71	



アドミニストレーション研究科博士課程開設式(4月6日)

本学大学院アドミニストレーション研究科に、この四月から博士課程が設置されました。アドミニストレーション研究科は、公共行政(パブリック・アドミニストレーション)と企業経営(ビジネス・アドミニストレーション)を総合的に教育研究する日本では初めての研究科です。この研究科では社会人の方が大学院生として勉強できるように、昼夜開講制を実施しています。現在でも、博士前期課程の学生三十一名中十七名が社会人学生です。また、博士後期課程も五名中四名が社会人学生です。現在学生のみなさんはもちろん、かつて学生であった人でも現

在の仕事の中で新たな勉学の意欲を持つている人は、ぜひこの日本で初めての研究科に入学することを考えてみませんか。

(博士後期課程開講科目)

・社会領域…アドミニストレーション、社会哲学、社会学、社会思想史、経済学説史
・公共領域…パブリック・アドミニストレーション、自治行政、社会保障行政、政治学
・経営領域…ビジネス・アドミニストレーション、経営組織、企業会計、日本経済
・規範領域…法哲学、憲法、行政法、財産法

アドミニストレーション研究科に博士課程を設置

PUK・PUK市 実行委員長

村上三佳子
(日本語日文学科3年)



二〇〇〇年四月一日、県立大学キャンパスにて、リサイクルlandフリーマーケットを開催した。これは、卒業等で不要品となった一人暮らし用の家具等を寄付、又は委託してもらい、新入生や留学生等に安価で譲ること、ゴミの減量及びリサイクル意識の向上を目的としたイベントである。それと同時に、彼らの経済的負担を軽減し、又物品の流れを通して学生同士及び地域住民の方との交流の場になる事を目指した。



テレビ等にも取り上げてもらい、イベントとして成功したかのようだが、報告書と関係者へのお礼状を手配し終わった今、冷静な頭で振り返ってみても、色々と反省点ばかりが目につく。開催当日は、晴天に恵まれ、来場者やフリーマーケットに出店して下さった方々も、アンケートを見る限り、満足いただけたようだった。(その点では、イベントは成功したといえる)しかし、前日までの準備不足、提供物及び出店数の量からわからない、事前の広報不足、何よりも問題なのは、各スタッフへの連絡不足、連携の無き…etc…。よく無事終わったものだと思分で感心してしまつた程であった。この様に書いてみると、後悔ばかりで、楽しくなかったとも言っているようだが、少数精鋭と言いつても開かせ動き回った日々は、若さゆえか、責任感の無さか、とても充実した日々だった。願わくは、このイベントの意味からも、来年もこの充実と後悔を味わうイベントを開催してほしい。

PUK・PUK市 マーケット

公開講演会の参加者募集

本学では、昭和六三年度から国内外の優れた研究者等を招へいし、本学の教育と関連の深いテーマについて講演を行う「公開講演会」を開催しています。



第1回公開講演会（6月23日）



を提供しようと県民の方々にも公開しており、参加者には毎回好評を得ています。

今年度の第一回は、神戸大学教授の市橋正光氏を講師に迎え、六月二三日に開催しました。市橋氏は、長年、太陽紫外線と皮膚との関係について研究され、この分野における日本を代表する方で、この日は「なぜ日焼けは健康に悪いのか？」と題して、スライドを用いて紫外線の有害性などについて話されました。一般の方四九名を含め、一八六名の参加があり、熱心に見入る姿が見られました。

また、第二回は、一〇月二〇日（金）に開催いたします。講師には精神医学、文化人類学などを専門に研究され、全国で活躍されている京都女子大学教授の野田正彰氏を迎え、「傷つくから不言実行」と題して、近年多発している少年事件についてお話しいただきます。そこで、第二回の参加者を募集いたします。どなたでも参加できますので、ぜひ御来場下さい。

【第2回】

・日時 平成二二年一〇月二〇日（金）
一〇時二〇分～一時五〇分
・場所 県立大学大講義室
・講師 野田正彰氏
（京都女子大学教授）
・テーマ「傷つくから不言実行」
——多発する少年事件に思う——
・受講料 無料
・申込先及び問い合わせ先 事務局総務企画課
（〇九六—三八三—二九二九）
【内線二三九】

新任教員紹介

＊平成二二年四月就任
◆環境共生学部
教授 岡田美津子（調理学）
助教授 大橋 好光（木質構造学）
講師 南 久則（栄養学）
講師 松崎 弘美（食資源開発学）
講師 辻原万規彦
講師 李 麗（地域環境調整工学）
（居住空間材料学）
◆総合管理学部
教授 松本 謙（経営学）
教授 荒木昭次郎（地方自治論）
助教授 進藤 三雄（英語）
講師 尾形不未夫（監査論）

役職紹介

学長 手島 孝
事務局長 古田 勝人
事務局次長 山田 誠人
文学部長 梅林 誠爾
環境共生学部長 菅野 道廣
総合管理学部長 久間 清俊
学生部長 深津 和彦
図書館長 秋山 喜文
外国語教育センター所長 元吉 瑞枝（文学部教授）
＊は平成二二年四月就任。

名誉教授

＊平成二二年六月八日授与
亀山 春 氏（元生活科学部教授）
太田 直一 氏（元生活科学部教授）
田中 啓介 氏（元文学部教授）
竹原 崇雄 氏（元文学部教授）

叙勲

＊平成二二年四月二九日発令
勲三等旭日中綬章
本田 義彦 氏
（熊本女子大学名誉教授）

訃報

環境共生学部 トムリンソン デビット教授（英語）は、平成二二年五月一日に永眠されました。ご冥福をお祈りします。

平成12年度 （後期）授業公開講座 受講生募集のお知らせ!!

本学では、平成12年度(後期)授業公開講座の受講生を募集します。

「授業公開講座」は、大学の正規の授業を学生と一緒に受ける制度で、毎年多くの社会人の方が受講されています。(平成12年度前期受講生約200名)「大学生気分」を味わう格好のチャンスです!この機会に、是非どうぞ。

- 1 対象 18歳以上の県民の方
- 2 募集期間 平成12年8月14日(月)～8月31日(木)
- 3 受講料 1科目4,000円
- 4 開講期間 平成12年10月～平成13年3月までの半年間
- 5 開講科目 33科目

＊8月より募集案内パンフレット(申込書付き)を配布します。
詳しくは、教務課【内線203】までお問い合わせください。

本学ホームページは 順次更新しています



本学では、ホームページを活用して、学生の就職活動を支援したり、図書館の検索サービス等を行っています。より多くの方々に本学の教育研究活動を知っていただくよう、大学概要、入試情報、研究者情報などを公開しています。

また、学報「春秋彩」もバックナンバーを紹介し、特に第一四号からは、全文を掲載しています。このほか、報道用に本学が提供した資料を、お知らせ(報道資料)で同時に公開し、その中でも特にタイムリーにお知らせしたい情報を「トピックス」で取り上げていますので、ぜひご覧ください。
(<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>)

Incident

(2000.2~2000.6)

月	日	内容
H12 2月	1日	後期試験(～10日)
	10日	国際交流のつどい
	11日	入学試験(大学院文学研究科(修士課程(後期募集)、博士前期課程(後期募集)、博士後期課程)
	14日	授業公開講座受講者募集(平成12年度前期)(～29日)
	14日	就職セミナー週間(～18日) (オリエンテーション、就職直前ガイダンス、第2回SPI模試、OB就職セミナー、学科別ガイダンス、就職活動ビデオセミナー、企業セミナー、集団面接セミナー)
	15日	地域講演会(球磨地区:上村)
	15日	入学試験(大学院文学研究科(修士課程(後期募集))
	15日	入学試験(特別選抜(私費外国人留学生))
	18日	モンタナ州立大学ボーズマン校への冬期研修団派遣(～3月11日)
	下旬	韓国・祥明大学校へ短期留学生派遣(最長1年間)
	25日	入学試験(一般選抜(前期))
3月	3日	求人票送付依頼
	6日	地域講演会(上益城地区:矢部町)
	8日	地域講演会(芦北地区:芦北町佐敷地区)
	中旬	韓国・祥明大学校からの短期留学生受入れ(1年間)
	13日	入学試験(一般選抜(後期))
	15日	卒業式(於:県立劇場)
	16日	地域講演会(芦北地区:芦北町湯浦地区)
4月	上旬	4年次就職ガイダンス
	上旬	公務員試験説明会
	1日	アドミニストレーション研究科博士課程設置
	3日	卒業年次生健康診断(～5日)
	5日	授業公開講座開講式
	5日	外国語教育センター自由講座(前期)開講
	6日	入学式(於:県立劇場)
	6日	アドミニストレーション研究科博士課程開設式
	6日	新生オリエンテーション(～7日)
	10日	在学生オリエンテーション
	11日	授業開始
	11日	奨学金、授業料減免説明会
	27日	外国人留学生との交流会
5月	中旬	1～3年次健康診断
	27日	環境共生学部新棟落成記念式典
	29日	「マンスフィールド環境国際会議」公開講演会
6月	8日	名誉教授称号授与式
	23日	公開講演会(第1回)
	24日	韓国・祥明大学校短期学生研修団受入れ(～7月3日)
	24日	第1回TOEIC IP実施
	27日	学長選挙(予備選挙)
	28日	3年次就職プレガイダンス(～30日)



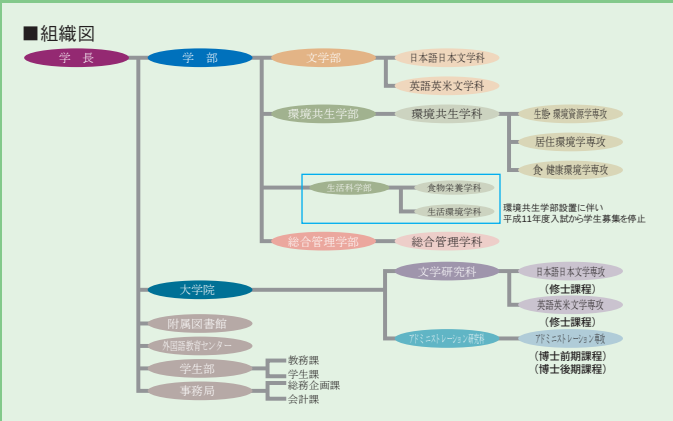
Schedule

(2000.7~2001.3)

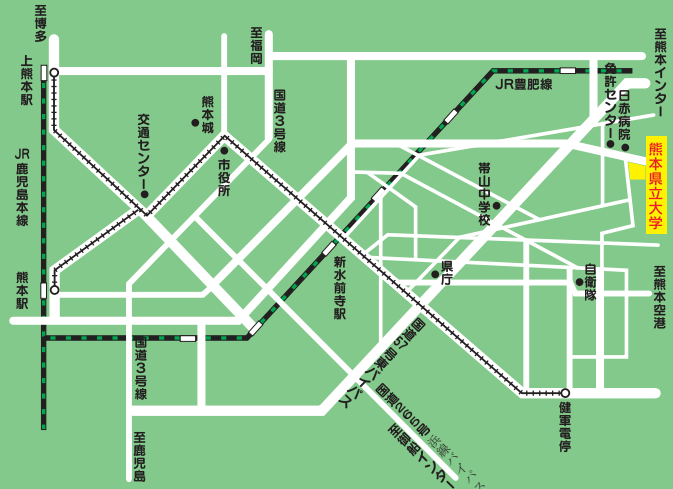
月	日	内容
H12 7月	3日	3年次進路個人面談(～14日)
	4日	夏休み直前講演会
	4日	学長選挙(本選挙)
	11日	夏季休業(文学部、環境共生学部、生活科学部、文学研究科)(～9月5日)
	13日	公務員ガイダンス
	25日	前期試験(総合管理学部、アドミニストレーション研究科)(～31日)
8月	上旬	インターンシップ「体験実習講座」(5日間)
	上旬	企業採用状況(追加・二次募集)調査
	1日	夏季休業(総合管理学部、アドミニストレーション研究科)(～9月30日)
	6日	オープンキャンパス
	14日	授業公開講座受講者募集(後期)(～31日)
	下旬	モンタナ州立大学ボーズマン校へ短期留学生派遣(1年間)
	28日	祥明大学校への短期研修団派遣(～9月4日)
9月	月内	地域講演会(第1回)
	6日	授業再開(文学部、環境共生学部、生活科学部、文学研究科、全学共通科目)
	9日	入学試験(大学院アドミニストレーション研究科(博士前期課程)(秋季))(～10日)
	25日	前期試験(文学部、環境共生学部、生活科学部、文学研究科、全学共通科目)(～29日)
10月	月内	企業訪問開始(～平成12年3月)
	月内	3年次進路個人面談(～12月)
	月内	地域講演会(第2回)
	上旬	教員試験対策講座開講
	上旬	就職講演会
	上旬	公務員ガイダンス
	上旬	公開模擬模範面接(3年次対象)
	上旬	TOEFL対策講座開講
	上旬	外国語教育センター自由講座(後期)開講
	2日	後期授業開始
	中旬	学内公務員講座(2年次向け、3年次向け)開講(～平成13年6月)
	10日	入学試験(大学院文学研究科(修士課程)(秋季))
	下旬	第1回3・4年次民間企業就職懇談会
	下旬	日本語教育課程の日本語教育実習(於:韓国・祥明大学校)
	20日	公開講演会(第2回)
11月	月内	就職シンポジウム
	月内	第1回企業との意見交換会
	月内	国家公務員試験説明会
	月内	地域講演会(第3回)
	月内	第2回TOEIC IPテスト
	4日	白亜祭(～5日)
	下旬	職業適性検査
	下旬	就職活動マナー講座
	下旬	TOEFL ITP
	22日	九州インカレ冬季競技大会
12月	月内	第1回学内公務員模擬試験(～平成13年5月まで8回程度)
	3日	入学試験(特別選抜(推薦入学、社会人、帰国子女))
	中旬	就職ミニガイダンス
	24日	冬季休業(～1月9日)
H13 1月	月内	第1回学内教員模擬試験(～5月まで3回程度実施)
	中旬	就職ミニガイダンス
	中旬	教員ガイダンス
	10日	授業再開
	20日	大学入試センター試験(～21日)
	30日	後期試験(～2月8日)
2月	月内	授業公開講座受講者募集(平成13年度前期)(～2月下旬)
	中旬	祥明大学校への短期留学生派遣(1年間)
	中旬	モンタナ州立大学ボーズマン校への冬期研修団派遣(～3月上旬)
	中旬	就職セミナー週間 (マナー講座、SPI模試、エントリーシート対策講座、第2回3・4年次民間企業就職懇談会、公務員試験懇談会、企業研究会、第2回民間企業との意見交換会)
	10日	入学試験(大学院アドミニストレーション研究科(博士前期・後期課程)(春季))(～11日)
	13日	入学試験(大学院文学研究科(修士課程)(春季))
	13日	入学試験(特別選抜(私費外国人留学生))
	25日	入学試験(一般選抜(前期))
3月	12日	入学試験(一般選抜(後期))
	14日	卒業式(於:県立劇場)
	下旬	祥明大学校短期留学生受入れ(1年間)

ご意見 感想募集

本誌についてのご意見、ご感想を下記にお寄せください。
みなさまのお声を参考に、今後の学報編集を行っていき
たいと考えておりますのでよろしくお願い致します。
〒862-8502（住所記載不要）
熊本県立大学事務局総務企画課 「春秋彩」担当行
FAX:096-384-6765 E-Mail:gakuho@pu-kumamoto.ac.jp



■位置・アクセス



- バスを利用する場合
JR熊本駅よりバスで約10分、交通センター下車。交通センターの27番のりばから、長嶺団地行き、または日赤経由月出行きバスで約40分、日赤病院前、または県立大通りで下車、すぐ。（駅前の市電通りのバス停より、ほぼすべてのバスが交通センターを経由します。）
- タクシーを利用する場合
熊本駅から 所要時間…約40分 料金…約3,000円
水前寺駅から 所要時間…約15分 料金…約1,200円
熊本空港から 所要時間…約30分 料金…約3,000円



熊本県立大学

PREFECTURAL
UNIVERSITY
OF KUMAMOTO



1 2 総 熊県大

③ 0 0 1 -1



古紙配合率40%再生紙を使用しています

発行：熊本県立大学
〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号
TEL.096(383)2929 (代) FAX.096(384)6765
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>